**THE TUDOR MANUFACTURE**

**ル・ロックルにあるチューダーの新しいマニュファクチュールのご紹介**

チューダー マニュファクチュールは、ブランドの約100年の歴史の中で、チューダーの時計製造に完全に特化した初の産業施設である。すべてのチューダー ウォッチは、スイスのル・ロックルにあるこの場所で組み立てられ、チューダーの高い基準に沿って全面的に検査されており、そこにはマスター クロノメーター認定を受けたモデルも含まれる。時計技術者の伝統的なノウハウと最高レベルの生産管理テクノロジーおよび自動検査システムを結集したこの新しい最先端施設は、3年の建設期間を経て2021年に完成した。チューダー レッドで統一されたこのマニュファクチュールは、5階建て総面積5,500平方メートルに及び、隣接するチューダーのムーブメント製造施設、ケニッシ マニュファクチュールと物理的にも視覚的にもつながっている。チューダーが所有する関連会社のネットワークおよびケニッシにより、チューダーは高性能機械式キャリバーの開発と製造の統合を実現してきた。その結果、チューダーは今では極めて重要な部品の製造を完全にマスターし、その品質を保証することができる。

**ヒストリー**

チューダー マニュファクチュールは、ジュラ山脈に位置するヌーシャテル州最北西部でフランスと国境を接するル・ロックルという田舎町にある。1万人という比較的小さな人口を抱えるル・ロックルだが、時計製造においてのこの町の重要性は計り知れない。隣接するラ・ショー=ド=フォンとともに2009年からユネスコの世界遺産に登録されている。もともと農作地帯だったこの地域は、17世紀初頭にはスイスの時計製造の主要地域の一つとなっていた。町の大部分が火災により焼失した後、成長期にあった時計製造業界のための町として再建され、効率化を最大限に高めるため平行する通りに工場と住宅が混在していた。

チューダー マニュファクチュールの建設は、モントル チューダー SAの組み立て業務を、ジュネーブからジュラ山脈にある関連会社やサプライヤーの近くに移すことを目的として、2018年に開始した。グループは1970年に開設したロレックスの施設に隣接する未開発工業用地を所有しており、そこはチューダー マニュファクチュールにとって完璧な場所だった。象徴的なチューダー レッドの建物は2021年に完成し、2023年3月、高級スイス時計製造の展示会、「ウォッチズ・アンド・ワンダーズ」の期間中に正式に落成した。

**マニュファクチュールの内部**

150名のチームがこのマニュファクチュールを拠点とし、精度と堅牢性が最も高い時計を製造するために、その一人ひとりが様々な業務を遂行している。チューダーの基本理念は、エンドユーザーにとって究極の価値が得られる時計を提供することだ。そのために、自動生産技術と熟練した時計職人の技術的ノウハウのユニークな融合を完成させたのだ。最高の時計を最適価格で提供するため、最先端の技術、社内物流システム、自動検査システムが活用されている。

**ケニッシ – チューダー ムーブメントの製造部門**

チューダーの時計のほとんどに、チューダー ムーブメントの製造部門であるケニッシで開発され組立てられたマニュファクチュール キャリバーが搭載されている。実は、チューダーとケニッシの建物は連結している。チューダーのマニュファクチュール キャリバーの研究開発から最終組立てまでの全工程がここで行われている。チューダー自体の需要に加え、高性能機械式ムーブメントの製造キャパシティを広げるために、ケニッシは2010年に建設された。その目的のため、チューダーは専門家グループを集め、2015年のバーゼルワールドで初期のキャリバーを発表した。チューダーを除いたケニッシの最初の外部顧客はブライトリングで、事業が発展していく中、2018年にシャネルと産業提携を結ぶ。今日では、ノルケイン、フォルティス、タグ・ホイヤー、ベル＆ロス、そしてウルトラマリンがケニッシの顧客となっている。

ケニッシの製造ラインは、最先端テクノロジーと人の手からなる専門技術を融合する力を活用するチューダーの取り組みを体現している。最初に、メインプレートはRFIDタグを埋め込んだ適切な直径のインサートに取り付けられる。インサートはシャトル装置に乗せられ、最初のワークステーションの組み立てラインに入る。RFIDタグはキャリバーが完成するまでの正確なルートを保証する。この技術はキャリバーの完全なトレーサビリティーを保証すると同時に、ビッグデータ分析を通じて製品の品質、生産性、組立工程を改善するために、すべての組立データを収集している。組立ラインで完全自動テストサイクルを通過した後、すべてのムーブメントはCOSC（スイス公認クロノメーター検査協会）に送られる。そして、ムーブメントの家であるウォッチケースが待つチューダーに戻されるのだ。

**組立**

時計職人にとって第一の技術的利点は、工場全体が一定の陽圧環境にあることだ。時計や機械への埃の侵入を軽減するため、チューダー マニュファクチュールの地下にある空調システムは重要な役割を果たしている。このシステムは、天井から床まで連続的な空気の流れを作り、埃が作業場舞うことを防ぐ。

エンドユーザーに価値を届けるため、チューダーは組立てられた時計の在庫を保管しない。生産される時計のすべてが、まもなく誰かの腕につけられることになっているのだ。つまりすべての時計が追跡され、データは効率改善のために使われる。それはまた、工場が非常に柔軟で、機敏で、万能であることを意味する。時計師たち製造はクロストレーニングを通じ、組立の全工程を学ばなくてはいけない。チューダーは、すべての工程の訓練を受けた4人の時計職人による自律的なセルによって、これを実現している。各ベンチは、機械から引き出しの中身や構成に至るまで同じようにレイアウトさている。これは、均質で人間工学的な作業環境を提供し、作業効率を最適化することを目的としている。セルのメンバーは常に一緒に働く。チームワークを築き、効率性を向上させるために、本格的に稼働する前にセルメンバーと一緒にトレーニングを行う。セル内の各メンバーはチューダー コレクションのすべての組立工程を実施できる。一つのセルがダイアルの取り付け、針の取り付け、そしてケーシングの3つの作業を行う。

**検査**

チューダーのすべての時計はチューダー マニュファクチュールで検査される。すべてのモデルがチューダー・パフォーマンス・コントロールをパスしなくてはいけない。つまり、ケーシングされた時計は、マニュファクチュール キャリバーの場合は日差が（-2、+4秒）の精度、その他のキャリバーなら（-4、+6秒）の精度でなければならない。それに加え、すべての時計が高気圧水槽での防水性能の検査を受ける。チューダー シリーズのいくつかのモデルはより精確で、METASの基準を満たしている。いずれすべてのチューダーの時計がMETASによるマスター クロノメーター認定を受けることになる。

METASによるマスター クロノメーターは、包括的な認証制度として精度、耐磁性、防水性、パワーリザーブなど、機械式時計に求められる主たる機能特性を検査対象としている。その基準は精度一つとっても極めて高く、認定を得るためにはケーシングされた時計の日差が5秒以内（0、+5秒）でなければならない。これは、スイス公認クロノメーター（COSC）の-4秒から+6秒の基準よりも5秒も厳しい上、チューダーがマニュファクチュール ムーブメント搭載の完成品に対して独自に定める日差-2秒から+4秒という基準よりも1秒少ない。さらにこの認証制度は、15,000ガウスの磁場環境にさらされた状態の時計の計時精度も保証する。そして、これはブランドが提唱する防水性能が国際標準化機構（ISO）の規格に準拠していることや、パワーリザーブも保証する。また、認証を得るには、2つの前提条件が必要であることにも注意が必要である。スイス製を名乗る基準を満たし、スイス公認クロノメーター検査協会（COSC）の認定を受けたムーブメントを搭載していなければならないのだ。

**TUDOR IS *BORN TO DARE***

チューダーの哲学、Born To Dare。これは、ブランドの歴史と、今日ブランドが象徴するものの両方を反映している。陸海空、ときには氷上でチューダーの腕時計を身に着け、並外れた偉業を成し遂げてきた挑戦者たちの物語そのものだ。そこには、極限の環境に耐え、挑戦し続ける人々のために腕時計をつくった創立者ハンス・ウイルスドルフの想いが宿っている。つまり、今日のチューダーを築き上げる支えとなった、時計製造に対するその先進的な取り組みの証なのだ。チューダーの革新は常に注目の的であり、チューダーのBorn To Dareの精神は、デイヴィッド・ベッカム、ジェイ・チョウ、オールブラックスといった、人生への大胆不敵なアプローチによって偉業を成し遂げた著名なアンバサダーたちから世界中で支持されている。

**ABOUT TUDOR**

チューダーは、数々の受賞歴のあるスイス製ウォッチブランドで、洗練された美しさ、確かな信頼性、そして価格を超える独自の価値を備えた機械式時計を提供する。チューダーの起源は、ロレックスの創立者ハンス・ウイルスドルフに代わって「チューダー（The Tudor）」が初めて登録された1926年に遡る。その後1946年、ハンス・ウイルスドルフは、ロレックスの品質と信頼性を有し、先駆性を備えた腕時計を製造するために、モントル チューダー SAを設立した。その結果、歴史の流れの中で、チューダーウォッチは勇猛果敢な人々に選ばれるようになった。ブラックベイ、ぺラゴス、グラマー、1926といったフラッグシップモデルをラインナップし、チューダーは2015年より、さまざまな機能を搭載した機械式のマニュファクチュール キャリバーを提案している。